

「2020年オリンピックに向けて世界に通じるコミュニケーション啓発事業」（市民活動団体提案協働事業）

（ヒップファミリークラブ大船鎌倉／文化人権課）

Q タイトルにある「オリンピック」について、プログラムの中でテーマとしたことはあったのか。

また、鎌倉市で実施する意味を持つようなカスタマイズはされていたのか。鎌倉市でなければ出来ないプログラムや、鎌倉ならではの特性を持つプログラムがあれば教えていただきたい。

A （団体）「オリンピック」は1つのきっかけだと考えている。その為、オリンピックをモチーフとした講座は開催していない。しかし、オリンピックを意識することで市民意識がコミュニケーションの啓発に向かいやすくなる為、タイトルに「オリンピック」を含ませている。元々、鎌倉市は観光客が沢山いらっしゃる為、ベースの市民意識は高いものの、関心度に温度差があると感じている。オリンピックの機運に乗って、市民全体の意識を底上げしたいと考えている。

「鎌倉ならではの活動」は、講座に盛り込めていない。ここに鎌倉と入れた意味は、鎌倉市のイメージアップを図ることにあり、市外からいらっしゃる方がもっと魅力的に感じる町になって欲しいという想いを込めている。「でいすふるたもす」とは「皆で楽しむ」という意味である。講座そのものを楽しんでいただくほか、鎌倉市民にはこの町で暮らすことを楽しんでいただき、市外の方には鎌倉市と私達のことを楽しんでいただきたい。そのような意図で付けたタイトルであったが、ご質問をいただいて、鎌倉をモチーフにした講座を開催しても良かったのだと発見になった。

Q お金について伺いたい。担当課と団体が提出された評価シートで、予算総額が組まれたが中身に変更ありと書かれているが、予算だと会場費が20,000円だったのが決算では36,000円になっている。交通費が予算では50,000円だったのが決算では20,000円。雑費が予算では30,000円だったのが決算では1,400円になっている。予算と決算の大きな変化の意味は何か教えていただきたい。

A （団体）まずは会場費について。土日に参加者が集中し、1度はキャパオーバーし、申込みをお断りする程であった。単年度事業であることを考えると非常に残念なので、市とも相談した結果、最終回には単価の高いが広い鎌倉芸術館をお借りした。定員を超える申込み者を受け入れることが出来たが、予算額と決算額が大きく変わってしまった。

交通費は、実は予算と同額程度かかっている。しかし、今回は高校生や大学生等のお小遣いを使って協力して下さった方の交通費のみに限定して決算している。大人には申し訳ないが手弁当でお越しいただいた。その理由は、周知に想像以上の費用が必要となったことにある。沢山の方に参加していただくことを大事にしている為、周知に予算を回し、交通費は自分達の中で工夫してやり繰りをした。

雑費も交通費と同様の理由で予算額から大幅に決算額を減らしている。文房具代等に関しては、団体の物を供用することとし、協働事業ではなく会の出費に計上させた。

予算の立て方が甘かったと言われればそれまでだが、効果的なお金の使い方をさせていただ

いた結果、予算額と決算額で齟齬が生じている。

Q つまり、この事業は予算の30万以上のお金がかかっていると認識すべきか。

A (団体) 無償ボランティアに因ったところがあると認識いただきたい。自分達の団体の中で処理をしている。

Q 市も把握していたのか。

A (文化人権課) 把握はしていた。単年度事業の為、事業全体を把握しきれていなかったり、会場費や交通費が確定できていなかったりする中で、甘い予算組みとなってしまった。

Q 講座内容に疑問点がある。「世界に通じるコミュニケーション力」とは、どういうものなのか教えていただきたい。この講座を受けるとどのような成果が出てくるのか。

A (団体) 「世界に通じるコミュニケーション力」と言って最初に考えられるのは、英語だけがコミュニケーションツールではないということである。その為、様々な言語を取り込んだプログラムを実施した。コミュニケーションをとる上で言葉は絶対に避けて通れないが、自分が知っている言葉かどうかの観点を超えて、目の前にいる方に興味を持ってコミュニケーションをとっていく姿勢が何よりも大事である。この姿勢が「世界に通じるコミュニケーション力」のスタートであると考えている。プログラムではその姿勢を持つことのみを目標を限定している為、あえて日本語の解釈を加えずに様々な言語で展開し、大人や英語の分かる方でも理解できない内容にした上で、その中でも「分かる」を体験して頂ける内容になっている。参加者からは「分からない言葉ばかりだったが楽しかった」、「外国語の垣根が低くなった」等の感想をいただいた。そういった参加者のお気持ちが講座の成果だと考えている。

Q 日本人の持つ外国語への苦手意識を取り除く為に非常に効果がありそうだと感じた。鎌倉に限らず日本全体で必要な講座である。

団体としては沢山の方に参加いただきたいとおっしゃっていたが、欠席が多いことに対してはどうお考えか。

A (団体) 小さいお子さんのいるご家族が多く申し込まれており、お子さんの体調不良や学校行事の日程変更による欠席がほとんどであった。お子さんのご都合が悪くなるとどうしても家族全員が欠席となるので、大人限定の講座に比べると欠席率が驚くほど高くなっている。

Q 市の協働事業として実施している以上、公益性が求められる。恐らく、オリンピックに向けたコミュニケーション力の推進や鎌倉の外国人観光客への対応の向上等が求められるだろう。観光ガイドに挑戦したり、街中で外国人に話しかけてみたり等の鎌倉市の為の行動へ繋がったという成果が示していただけたら、公益性を感じられ協働事業としても高く評価されるだろう。事業を終えてそのような手ごたえはあるか、或いは、活動を継続していく上で公益性に繋げていく上での可能性や取り組みたいこと等はあるか。

A (団体) たまたまであるが、慶応の藤沢キャンパスから学生への実践的な授業の依頼を頂いている。鎌倉・大船に限らず本部も関わるが、学生への授業を実施していく。

団体としても日常的に活動しており、ホームステイも受け入れている為、興味を持っていただければ、様々な取り組みをご紹介出来るものの、今回は協働事業であったので団体の紹介は一切していない。むしろ、会の紹介をしても良かったのかと驚いている。今後、協働事業の場での団体の立ち位置を教えていただきたい。

鎌倉市の国際協力交流連絡会にも所属しており、秋には鎌倉市の国際交流フェスティバルを開催する。フェスティバルには国際協力交流に関する団体が沢山いらっしゃるが、そういう団体のご紹介や連携が出来れば良かった。まだまだ課題はある。